

# にほんごのおしえかた

シリーズにほんご「接続と文末の練習Ⅱ」のてびき

高柳和子      辰 正子      袴田陽子      山下治之

共著



## はじめに

本書「にほんごのおしえかた」は、日本語教科書「接続と文末の練習Ⅱ」のてびき書として制作しました。「接続と文末の練習Ⅱ」（5～8課）はシリーズ「にほんご」の4冊目のテキストで、「接続と文末の練習Ⅰ」（1～4課）の続きです。

同シリーズは、どのテキストもイラストが多用されています。これらのイラストは、語彙や文法・文型を示すだけでなく、ターゲットとなる場面の状況をも学習者から引き出すためのイラストとなっています。

本書は、学習すべき文法や文型について、どのように外国人学習者に語りかけていけばよいのか、また、どのような話題で話を広げていけばよいのかなど、すぐに役に立つ文法知識やアイデア・話題を提供しています。それぞれのアイデアは、日本語ボランティア教室、日本語学校、外国人社員教育、大学等の機関で培われたものであり、他の日本語教科書を使ってもほかの教育機関でも、十分に使えるものであると信じています。

日々の日本語授業のために格闘しているみなさんに、一読していただければ幸いです。ぜひ、日本語教科書「接続と文末の練習Ⅱ」と併せてご利用ください。



別売 にほんご「接続と文末の練習Ⅱ」

イラスト版（学習者用）／ CD ／ 文字版（CD スクリプト）

—— 各¥900（本体 857 円）

## もくじ

序文	∞	ii
てびきの構成と使い方	∞	x ~ x v
5課	あそこはカレーがうまいんだ	———— 助詞「は」「が」を使って
1章	東京は晴れ、気温は20度です。	∞ 1
2章	あそこは肉が安いんです	15
6課	買うのを 忘れた！	
1章	今は…、日本に来る前は…	∞ 26
	———— 助詞「は」を使って	
2章	一杯やるのが 楽しみです	37
	———— 助詞「の」を使って	
3章	食べ終わったら かたづけて	49
	———— 「～たら」を使って	
7課	泳げるようになりました	
1章	この水は 飲めません	∞ 61
	———— 可能形を使って	
2章	遠くなければ 行きます	79
	———— 「～えば」を使って	
3章	手をかざすと 水が流れます	92
	———— 助詞「と」を使って	
8課	「て形」のいろいろ	———— 「て形」を使って
1章	好きなものを選んで、お金を入れて・・・	∞ 99
2章	食べてから みがきます	109
3章	焼いて 食べます	116
4章	黒くて小さい種があります	123

## < ここに注目！ >

### 5 課

- ▶ 「は」と「が」を比べてみよう 2
- ▶ 状態を表す「～ている」形 9
- ▶ 「人」とはだれのこと？ 11
- ▶ 「あそこ」と「あんなところ」は どう違う？ 11
- ▶ 相手の問いかけが 答の文型を選ばせる (「は」「が」) 22
- ▶ 婉曲話法 (「は」「が」) 23

### 6 課

- ▶ イメージの共有を目指したやりとりのコツ 28
  - 実践報告 (「～は.....けど、～は.....」)
- ▶ 思ったことを率直に話せる場に！ 30
- ▶ 不十分な日本語に潜む真意を察知しよう 31
  - 実践報告 (「～は.....けど、～は.....」)
- ▶ 訂正のしかた — 発想と表現の間のズレを修正する 32
- ▶ 文を名詞化する「の」と「こと」はどう違う？ — 実践報告 42
- ▶ 語彙の扱いを大切に
  - 1. <かたづける・しまう・戻す>の違いは何？ 52
  - 2. 終助詞「ね・よ・よね」はどう違う？ 53
- ▶ 「～たら」と「～てから」はどう違う？ 56

### 7 課

- ▶ イラスト⇒発話者の立場を共有する⇒日本語で言う 63
- ▶ 訂正や助言は、わかりやすいことばで 64
- ▶ 表現を選択して使う力をつけよう 69
- ▶ 「～えば」と「～たら」は どう違う？ 82
- ▶ <～たいんですが……>の後ろに隠されているのは？ 90
- ▶ こんなところに「は」と「が」の力が働いている 96

### 8 課

- ▶ 自由な発言と、学習をバランスよく！ 102
- ▶ 自由な発言の後、目標の文型の確認を忘れずに！ 105
  - 実践報告 (「～て ～て...」)
- ▶ 指示詞<こ・そ・あ>に注目してみよう 107
- ▶ 複数の形容詞の、連結の仕方と並び順に注目 128

## 序文

### ● テキストの対象はどんな人たちが

「接続と文末の練習Ⅱ」は、初級者の中でも、ある程度日本語が話せる外国人市民を対象にしています。体験的に身につけている日本語は、生活環境によってそれぞれ違いますし、漢字圏か非漢字圏かで、文字の受け止めかたにも大きな差があります。

共通なのは、日常のあらゆる場面で、伝えたい思いを表現することばに詰まったり、伝えきれない歯がゆさを感じたりしているということです。

「このことを、いま聞きたい」

「見たこと、起きたことをよくわかるように話したい」

「考えていることを伝えたい。聞いてくれる相手がほしい」

「自分の話している日本語が正しいかどうか確認したい」

「相手に失礼にならない言い方を知りたい」

日本に根を下ろそうとする人たちは、「言いたいことが確実に伝わる日本語」を身につけたいと願っています。それは、人間関係を広げ、共同社会に参加するのに絶対必要な力だからです。

### ● 日本人が学ぶこと

日本は今、好むと好まざるとにかかわらず、外国人と共に生きる多文化社会への道を歩み始めています。いまや日本人自身が、日常的に、価値観の異なる人びとと生きていく能力が求められる時代となりました。

互いの異なった価値観はそのまま認め合った上で、折り合いながら生きていく知恵を身につけること、それが「共生の社会」への準備ではないでしょうか。そう考えると、いろいろな人が集まって、自由に話し合える場 — 日本語の教室 — の存在の切実さを強く感じます。その場は、日本人にとって、多文化社会の市民としての生き方を身につける貴重な場になると考えます。

## ● テキストが目指すこと

シリーズ「にほんご」のねらいは、基本的な学習と、話し合って相互理解を深めることが、矛盾なく両立する「場」を作り出すことです。

多文化コミュニケーションがねらいですから、この「場」は、外国人も日本人も複数でいっしょにテーブルを囲む形が理想です。日本語がまだ片言の入門期の学習者でも、ある程度話せる人でも、自分の発想を自分の持っている日本語で何とかして表現し、レベル差があっても参加できる、そんな「場」を想定しています。

私たちは、「イラスト」が異なった母語を持つ人びとの共通語になりうるということに気づき、それを利用したテキストの開発を行ってきました。「接続と文末の練習Ⅱ」では、イラストを見て感じたことを、学習目標の「表現の形」を使うことで発話できるよう工夫されています。

文法、語彙、音声、コミュニケーションのスキル等は、外国語を身に付ける上で必要な基本的な学習です。それらの意味を理解し、使い方がわかったら、すぐその場で自分を表現する道具として使ってもらいます。準備された話題について参加者同士が話し合う中で、学習者は、身に付けた「道具」を使うことで、より適切に自分の考えを述べるができるようになります。他の人の話も理解できるようになると、お互いの経験や人柄に触れる機会がより多く生まれます。

このテキストを使った実際のクラスで、わたしたちは多くのそうした時間を見できました。それは参加者にとって、心から楽しく、幸せな時間であることもわかってきました。

## ● なぜイラストを使っているか

シリーズ「にほんご」は、イラスト版・CD・文字版からできています。

### イラスト版

テキストのいわば本体です。イラストは、その時間に学習することのイメージを共有するための手段であり、楽しみながら発言するための糸口です。イラストを見ながら、「ここはどこだろう」「この物は何かな」「この人は何を言っているんだろう」と考えるところが出発点です。イラストには、一つひとつ意味があるので、それをよく観察しましょう。 絵の細部は、学習目標

である吹き出しのことばに深い関係があります。

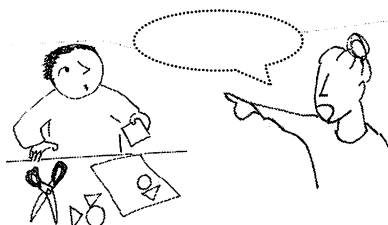
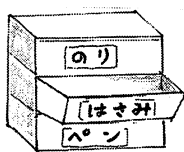
イラスト版 p 14 (6 課 3 章) を見てください。

表現の形: .....たら、～て。

1. (例)



2.



上の絵を見ると、お母さんはこどもに何か指示しているらしい、ということがわかります。同じパターンのイラスト群(2～5)を見ることで、状況の共通点がわかります。『母語だったらこう言うところだな』と、お母さんの伝えたいことが頭に浮かんでくるでしょう。それを日本語にするときに必要なのが「～たら、～て」という「表現の形」です。

イラストという共通言語からイメージが共有できたら、それをまず自分の力で日本語で表現します。自由な表現には、発話者の価値観や個性が出てきて、多様な考え方があることに気づかされます。(進め方の詳細は別記)

CD

イラストの状況を表した一つの例が入っています。表現の可能性はいろいろあるはずで、これがすべてではありません。もちろん正解などは存在しません。

文字版

CD のスクリプトです。どんな会話が収められているか、最終的に文法が獲得できているかどうかなど、確認するときに使ってください。



## ● 進行役 (facilitator) の しごと

このテキストは、<sup>マン・ツウ・マン</sup>1 対 1 ではなく、日本人と外国人がグループで活動することを念頭に制作しました。一つのテーブルを囲んだ参加者が、テキストのイラストを見ながら、ひらめいたことや考えたことを自由に言い合います。そして、イラスト群に共通する状況が何であるかを理解し、吹き出しのことばを自分で作って言ってみます。

その話し合いの過程で、進行役は「こういうことがあったんだけど」と話題を紹介して話し合うきっかけをつくったり、「\*\*さんはだれにこう言いますか」と参加者の生活や経験について聞いたりします。これは、その日本語表現や語彙を「自分の生活で、いつ使ったか」「いつ使えるか」を参加者に考えてもらうためです。また、一人から出た質問を全員で共有できるようにしたり、参加者同士が質問し合うよう促したりするなど、グループ全体の仲介をするのも、進行役の大事な仕事です。

話し合いの場の「全体の流れを作る」「質問や話題の紹介で話し合いのきっかけをつくる」「参加者同士を結び付ける」のが進行役の仕事となります。

## ● 複数の日本人が参加している意味は？

ここでは、日本人も意見を交換するメンバーの一人です。学習目標の文型を使って、自分のことを話す責任があります。「私、教える人」という意識を捨てて、一個人として参加しましょう。参加者の国籍や滞日年数や個性によって、「場」の雰囲気はそのつど異なります。皆が、自分らしく自由に表現できる楽しさを味わえるよう、参加意識をもって進行役を助けましょう。

ここで、日常的な会話の一つを例に、どのようにみんなが参加して話し合いを進めたか、具体的に紹介します。

6 課 3 章では「～たら、～て」の基本的な働きを紹介しています (iii ページ参照)。テキストでは、基本の働きを理解した後の次のステップとして、わたしたちが日常、どんなときにその表現を使っているかを考えます。

《 目標の会話 》

{ A : ほら、これ見て！「●●」のDVD、さっき買ったんだ。  
B : あ、そう。ぼくも見たかったんだ。見たら貸して！  
A : うん、いいよ。

進 行 役 : F (Facilitator) 学習者 : L 1, L 2・・・ (Learner)

日本人同席者 : J 1, J 2・・・ (Japanese)

F : 最近、人気のある映画に、どんなのがありますか。

L 1 : 「●●」

L 2 : 「××」

J 1 : 「△△」の映画は、テレビのCMで見ました。

J 2 : わたしは最近、「□□」を見ましたよ。

ー 以降、進行役が、学習者、日本人からその他の映画のタイトルを聞くー

(既に見た映画であれば、その内容や印象を聞いてもよい)

F : L 1 さん、「●●」は、もう見ましたか。

L 1 : いいえ、まだです。

F : じゃあ、例えばですけど、

私は、さっき「●●」のDVDを買いました。

L 1 さん見たい？

L 1 : はい。

F : そうですよ。見たいですよ。

L 1 : はい、もちろん。

F : その見たいという気持ちで、わたしからDVDを借りてください。

わたしに、何と言いますか？

L 1 : 「●●」のDVDを貸してください。

進行役が期待していた『見たら貸してください』と言う発話が、すぐに出てくるわけではありません。ここは、他の参加者の力を借りましょう。

- F : J 1 さん、わたし、「●●」のDVDさっき買ったって言ったんですけど、「貸してください」って、すぐ言いますか。
- J 1 : うーん、ちょっと乱暴かなあ。
- J 2 : そうですねえ。T さんが「さっき買った」って言っていたから、まだ、見ていないと思うし。
- F : どんな言い方がいいでしょうか。
- じゃあ、日本の生活が長いL 3 さん、どうですか。
- L 3 : 「見てから貸してください。」
- J 3 : それも間違いじゃないけど……。なんか違うなあ。
- 「早く見ろ！」って言われているような気がする。
- L 3 : んーん。じゃあ、「見たら貸してください」はどうですか。
- J 4 : うん。それが一番いい！
- F : じゃあ、今度はL 4 さん、始めからやってみましょう。
- 「わたし、さっき、●●のDVD買ったんですよ！」
- L 4 : そうですか。見たら貸してください。
- F : ええ、もちろんいいですよ。L 1 さんも見たいと言っていましたから、じゃあ、見たらL 1 さんに渡してくださいね。
- L 4 : はい。
- ……でも、F さん、『たら』はどんな気持ちで言いますか？

### 困った時がいっしょに考える好機

学習者は、いろいろなことを感じながらみんなのやり取りを聞いています。そして疑問に感じたことをぶつけてきます。このような場合には、同席している日本人の助けを借りましょう。いや、助けを借りるというより、日本人と、外国人がいっしょに『たら』という形について考える好機と捉えましょう。

では続きを……

- F : …… (F, 答えられず)。
- みなさんは、どう感じていますか。(他の日本人同席者に回す)
- J 1 : どうでしょう。「見てから」よりソフトな感じがするなあ。
- J 2 : そうですね。
- 「見た後は、いつでもいい」という感じがしますね。

J 3 : そうね。なんか時間的に余裕がある。せかされてる感じが無い。

F : じゃあ『たら』は、「あなたがいつ見るかわからないけれど、いつでもいいからあなたが見たあと貸してください」そんな気持ちですかね。

J 3 : まあ、そうですね。

L 4 : なるほど。

### 知恵を出し合って表現の核心に近づく

このやりとりで、なにより大切なのは、説明して何とか正解を手渡そうとするのではなく、外国人学習者とわたしたち日本人が、自分自身の頭で考え、互いに尋ね合い、知恵を出し合い、相互に意見交換をして、意味をさぐろうとしているところです。この作業を繰り返すことによって、双方が、日本語の表現や語彙の核心に近づき、気づいていくのです。

では、L 4の学習者による『たら』はどんな気持ちで言うのか」という質問に進行役も答えられず、他の日本人との話し合いでも得心のいく結論に到達できなかった場合はどうしたらいいのでしょうか。

たとえ母語であつても回答が出せないことは山ほどあるはずです。

分析的な結果や、適切な状況を含めた例文が得られずとも、「この状況ではいま、あなたの言った表現・語彙は使える、或いは使えない」ということは、日本人だったら経験に照らして言えるはずです。また、「うまく言えないけどこんな感じがする」「こう言われたらうれしい」「そう言われるとちょっと腹がたつ」など、「わたしはこう感じる」という気持ちは、日本人であればその場の話し合いで出せると思います。学習者は、そのような回答で満足することが多いのです。むしろ、説明よりそれを望んでいるのです。

学習者はこれをきっかけに「この状況では使える、使えない」の判断をし、表現や語彙の使える範囲を模索しはじめ、日本語を使うときの判断の基準とするのです。

### 日本人自身の母語の気づきの場とする

日本人同士の話し合いでも回答が得られない場合は、「この問題は宿題として持ち帰る」と伝え、時間をおきましょう。日本語教室は、『自分の母語を再確認する場』と捉え、『日本人なのに、自分も知らなかった』、『ここに来なければ気がつかなかった』と思うことのできる『気づき』の場としましょう。

日本語を考える貴重なヒントをもらったことをまず喜び、考えてもだめなら白旗をあげる。しかし、それは決して無駄な時間ではないと、わたしたちは考えます。これまで気づかなかった日本語について、白旗の数だけ考えるチャンスがあったわけですから。

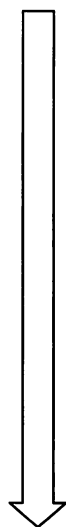
今日、隣人の多くが外国人であるという、これまでわたしたちが経験したことのない時代に差しかかっています。これを好機と捉え、日本語教室は、外国の人々が日本語を学習するだけの場ではなく、日本人も、外国人の力を借りて学習する場だと捉えることが先決だと思います。

本解説書には、外国人と日本人が『語り合い、気づき合う』ためのきっかけをちりばめたつもりです。

# てびきの構成と使い方

本書の内容は、「接続と文末の練習Ⅱ」の課と章の編成に準じています。また、各章のセクションの解説の流れは以下のようになっています。

## 「てびき」の構成



➡➡➡➡ 日常のどんなところで使っているだろう

◇◇◇ 「\*\*」を使って話しましょう < 文法 >

✌ これだけは押さえておこう  
——「\*\*」の働き < 意味を分析する >

クラスの前に準備すること < 意味を導入する >

クラスワークの進め方

➡➡➡➡ もう一度、日常の生活に戻ってみよう！

## てびきの使い方

以下に、6課3章「食べ終わったら かたづけて・セクションⅠA」を例に、本書の制作意図と使い方を説明します。

### 6課3章 食べ終わったら かたづけて

ⅠA いつ、どうしますか

イラスト1. (例)

A: 食べ終わったら、かたづけて。

#### ➡➡➡➡ 日常のどんなところで使っているだろう

ここでは、これから学習する文法が、日常生活のどんな場面で使われているかを示しました。

新聞などの文章表現をはじめ、カタログ・ちらし・図鑑など、ビジュアルなものからも幅広く該当文法の使用例を集めました。これから学習する「表現の形」が現実の世界ではどのように使われているかを認識することから始めましょう。

学習がテキストの中のことだけにとどまっていれば、ことばは生きていく上で力になりません。テキストの学習と、学習したことを日常生活の中でどう使うかの間を行ったり来たりすることが、学習の大切な姿勢です。

各章の最後にある **会話** でも、その章で取り上げた「表現の形」が、日常のどんな状況で使われているかを紹介しています。

◇◇◇ 「～たら」を使って話しましょう

《 文 法 》

文 法： ～たら

表現の形： I A ～たら (～て)

I B ～たら (～する)

II (もし) ～たら (～する)

表現意図： I A ある動作が完了した時点で、相手の人にしてほしいことを指示したり、依頼したりする

I B 相手に求められたことを実行するタイミングを言う

II ある状況を仮定して、そのとき何をするかを言う

✌ これだけは押さえておこう —— 「～たら」の働き

《 意味を分析する 》

「～たら」は、上に示したように、複数の「表現の形」(文型)の中で、異なった働きをします。それぞれが、どのような意味を伝える働きをしているかを理解する作業を「分析」と呼ぶことにしましょう。

「意味の分析」は、準備段階の最も大切な作業です。

『✌ これだけは押さえておこう』には、文型の分析の結果が簡単に示してあります。

テキストでは、扱う文型を、人がどんなとき、誰に、何を伝えるために使うか、その状況がイメージしやすいよう、場面をイラストで見せています。

この章の《 セクション I A・I B・II 》では、三つの異なった働き方をする「たら」を、イラストで提出しています。

次のステップは、学習者に、分析の結果わかった「意味」を感じとってもらうことです。その作業を「意味の導入」と呼ぶことにしましょう。



## 《 意味を導入する 》

意味の導入は、イラストのキャラクターが今どんな状況にあるのか、どんなことを言い出すだろうか（心情がどんな発話の形を取る可能性があるか）、学習者にイメージしてもらう作業と言っていいでしょう。

イラスト1（例）を見てください。

『子どもは一人で食事中です。お母さんは、食事が終わった時点であとかたづけをするよう、子どもに言おうとしています』

これが、お母さんに「～たら～て」という「文型」を選ばせる状況です。その状況のイメージを参加者が共有するための「質問」を用意するのが準備です。

質問群は、状況を考えるためのヒントであって、正解を求めるものではありません。

### ステップ1

#### 文型の働きに目に向くような「質問」を用意する

- ・ この子は、いま、何をしてる？
- ・ お母さんが、指で指しているのはどこ？
- ・ お母さんは、子どもに、いつ、何をするように言いたいのでしょうか。
- ・ では、お母さんになって、子どもに、いつ、なにをしてほしいか  
言ってください。

上の四問はイメージを共有するための、基本的な問いかけです。こちらが期待するように学習者の頭が動かないときも、相手の力に合わせて、できるだけ簡単なわかりやすいことばで、求めるイメージに近づくよう問いかけを続けましょう。

お母さんが何を言おうとしているか、80%程度つかめたら、「自分ならこう言う」と、吹き出しのせりふを自由に言ってもらいます。

テキストとちがうことを言っても、ヒントを元に自分で考えて表現していれば、全て受け止めて、そこから話し合いをスタートさせましょう。

出てくる日本語は不十分であつたり、言わんとすることがはっきりしなかったりしますが、どんな場合も、言おうとしていることに耳を傾け、表現を完成させるのを助けましょう。

意見が出揃ってから、CDで、このお母さんの声を聞いてもらいます。

『そうか、この言い方をすれば表現できるんだ』と、表現したい「内容」と、それを表現する「形」が、頭の中でしっかり結び付くよう話し合うのがこのステップの目的です。

一方、日本人は、質問を準備するプロセスで、『確かに、こんな状況のとき、この文型や語彙を使って話しているな』と日本語を意識化してください。

## ステップ2

### 自分のことで話そう／話を広げよう

文型によって、それを使ってすぐ、自分（自分の国）のことや自分の意見などを表現できる場合と、できない場合があります。

「～たら、～て」は後者です。その場合、話題を設定して話し合いを展開させましょう。PP. iii～v に、話題を「お母さんのしつけ」から「DVDの貸し借り」に広げたクラスワークの実践報告が出ていますので参考にしてください。

### クラスワークの進め方

「クラスの前に準備すること」を参考に、**ステップ 1** に沿って、その文型の《意味の導入》を行います。

意味が導入されたら、**ステップ 2** に進んで、自分のこと、日常のことに話を広げましょう。

残りのイラストも、(例)に倣って意見を出し合い、自分の力で吹き出しのせりふを言ってもらいます。考えるヒントとしての質問、話を広げるきっかけの出し方などが提示されていますから参考にしてください。

### 会話の内容のまとめ

各章の最後にある **会話** の内容が、表にまとめてあります（6課1章と8課を除く）。文型、語彙、あいづちなどの働きについて話し合うとき、ヒントとして使ってください。

➡➡➡➡ もう一度、日常生活に戻ってみよう！

冒頭の「➡➡➡➡ 日常のどんなところで使っているだろう」を、もう一度見てください。複数の文は、まるで異なった話題ですが、共通の文法が使われていて、文は、共通の意図を伝えます。それが「文法」の持つ働きです。

「～たら、～て」の「意味」が習得できたら、学習者が生活の中で、この文型を使う可能性のある場面を提供しましょう。

学習者の職業、年齢などによって、いつ、どんなとき、この文型を使うかは人それぞれです。ここにもいろいろな例を用意しましたが、その日の学習者にふさわしい場面を提供するよう心がけてください。

これが、仕上げの作業です。

▶ ここにも注目！

類似したことばの「意味」の違い、発話の訂正の仕方、問いかけ(質問)の工夫などについて、各所で「実践の記録」あるいは、実践を元にした解説を試みました。

その他

他に 







 が随所に挿入されています。